

北九州市立大学・地域創生学群の情報が掲載！

地創生とつくる 未来の自分の物語



この度は、「地創新聞VOL.3.5」を手にとっていただき、ありがとうございます！

本誌は、北九州市立大学 地域創生学群の活動の一環として広報実習が発行したものです。地域創生学群には12の実習があり、今年度はそれぞれの実習がどのように地域の方々と関わっているのかを取材しました。今回は、地域の皆さまにも参加していただけるイベントに焦点を当てています。この新聞をきっかけに、地域創生学群や地域での取り組みに少しでも興味を持っていただければ幸いです。

今年度は、全ての実習を5回に分けて紹介しています。そして、今回が最後の発行です。最後の表紙は、自然豊かでこれからの季節を彩っていく「平尾台」を選びました。各新聞は北九州市で活躍する学生の活動をお届けしながら、観光スポットも紹介しています。ぜひ、左下のQRコードを読み込んでみてください。

今年度も多くの方のご協力のもと、無事に「地創新聞」を発行することができたこと心よりお礼申し上げます。

それでは、またどこかでお会いしましょう！

広報実習

【地域創生学群とは】

地域に関する理論と現場理解により地域社会をマネジメントし、地域の再生と創造に貢献できる人材を育成することを理念とし、総合的な人間力を培い、地域社会のさまざまな分野で指導的役割を担える人材の養成を目指しています。

地域社会というリアルな現場は、企業や行政機関のみならず、市民活動や障がいスポーツ、福祉等の分野において、指導的あるいはコーディネーター的役割を担える能力を養うことに重点を置いている学部です。

もっと地域創生学群を知りたくなりましたか？
ぜひ左右のQRコードを読み込んでみてください！



協働で創るボン・ジョーノのまち

＼ボン・ジョーノ実習／

郷土料理を囲んで、学生と地域の方が自然に笑顔になった芋煮会。わんぱく農園で育てた食材を料理し、住民さんへ振舞われていました。料理の温かさと交流の楽しさが一緒になった特別な1日取材しました。

【ボン・ジョーノ実習とは？】

ボン・ジョーノ実習は、「学生が住民さんと協働しながら一緒に街をつくっていく」ことをコンセプトに活動を行っています。活動内容は「TETTE会」、「わんぱく農園」、「わたぼうしの会」の3つがあり、芋煮会は「わんぱく農園」の活動として行われました。また、食を通じた地域交流の場づくりを行っている「たべTETTE」やまちの清掃活動を行う「おそうじラボ」などの地域活動にも参加しています。

鍋から広がる交流の輪

芋煮会は、学生の出身地の郷土料理を紹介しながら地域の方との交流を深めるため、住民さんが主催するボン・ジョーノ大運動会とあわせて開かれました。コミュニティファームで育てた里芋を学生が収穫して調理し、振舞われていました。この芋煮会は学生が中心となり、企画段階から内容を1から考え、住民さんと連携しながら実現した初の取り組みです。

心を込めた懐かしの味

芋煮の味付けには、学生が地元で学んだ味付けを活かし、醤油や味噌を使い分けて里芋の甘みを引き立てる工夫が込められていました。食べてみると、これまで知っていた里芋の味とは違い、里芋本来の甘さを強く感じました。芋煮を味わった住民さんからも「懐かしい味」「体が温まる」「やさしい味」との声があがっていました。



←だしの効いた温かい一杯を求めて、多くの住民さんが行列を作り、順番が来るのを心待ちにしていました。

当日は芋煮会だけでなく、月例の「おそうじラボ」で学生と住民さんが協力して、清掃活動を行ったり、第2回ボン・ジョーノ大運動会も開催されました。おそうじラボや運動会そして芋煮会と多彩なイベントが続き、笑顔や声援があふれ、地域の交流がさらに広がる一日でした。



↑清掃活動の様子



↑玉入れの様子

この実習で身に付くこと！

- ・地域と協働する経験
- ・企画を形にする実践力
- ・人と場をつなぐ交流

Q.芋煮会を企画したきっかけは？

A. わんぱく農園の年間計画に「学生の地元を出したい」という目標があり、自分の出身地域を活かしたいと思い、山形県の芋煮を取り入れることにしました。北九州ではあまり馴染みがない料理ですが、地域の方への恩返しの気持ちも込めています。
(芋煮会学生リーダーより)

Q.住民さんとの仲の良さの秘訣は？

A. ボン・ジョーノ地域ではイベントが多く、自然と関わる機会が多いからだと思います。イベントに参加しているうちに、住民さんに顔を覚えていただいたりして、「顔の見える関係」が生まれていることが仲の良さの秘訣になっていると思います。
(ボン・ジョーノ実習の学生より)

各種地創の情報はこちらから



ボン・ジョーノ実習の学びを詳しく発信中！



ボン・ジョーノ実習のインスタもチェック！

地域と自分 共にひろがる

421Lab.学生運営スタッフ実習 /

地域創生学群の学生に限らず、他学部の学生も所属する421Lab.学生運営スタッフ実習（以下、421Lab.）。今回は、発表部門とポスターセッション部門の2部門制で今年度の活動の報告や振り返りを学生主催で行う「地域活動発表会」に潜入しました。

【421Lab.学生運営スタッフ実習とは？】

今年度で15周年を迎えた421Lab.は、地域社会での実践活動を通して次世代を担う人材の育成を目指すとともに、本学の地域貢献活動の一翼を担うことを目的に設置されました。その中で学生が主体的に運営を行うのが本実習です。学生が積極的に地域へ出て活動に取り組み、地域と大学が共に成長する社会づくりを進めています。

地域活動発表会って？

421Lab.に所属する19のプロジェクトが1年間の活動を振り返り、プロジェクトの活動報告及び地域の方へ感謝を伝える場です。また、自分たちの活動を伝えるだけでなく、他のプロジェクトの活動も深く理解をすることによって、来年度の活動の発展と活動意欲の向上を図ります。発表部門ではパワーポイントを用いた口頭発表、ポスターセッション部門ではポスターにまとめた今年度の活動を報告します。

学生の手でつくる発表会

地域活動発表会は学生が中心となって運営を行っています。発表内容の確認や役割分担、企業への協賛依頼などを行うために、何度もミーティングを重ねながら準備を進めてきました。当日の受付や進行、会場準備などにも約50人の運営スタッフが関わり、それぞれが役割を担いながら発表会を作り上げています。こうした準備の積み重ねが、当日の円滑な進行につながりました。



←全体で共有が終わった後、グループごとにミーティングを行います。意見を出し合いながら、より良い発表会を目指して工夫を重ねています。

発表会当日は、プロジェクトに所属する学生をはじめ、受け入れ先の企業や地域の方など多くの方が来場しました。「みらいピースプロジェクト」や「地域クリーンアッププロジェクト」など、多くのプロジェクトが壇上に上がり、1年間の活動内容や成果、活動を通して得た学びや想いを発表しました。



↑発表部門の様子



↑ポスターセッション部門の様子

この実習で身に付くこと！

- ・ 組織を運営する力
- ・ ビジネスマナー
- ・ 地域や企業との関わり方

Q.地域活動発表会を通して学んだことは？

A.事前準備と、細部まで把握することの大切さです。前日にバタバタしてしまった部分も多く余裕をもって準備することの大切さを実感しました。(421Lab.学生リーダーより)

Q.地域活動発表会で大変だったことは？

A.企業の協賛を集めることや、発表の部門ごとの進捗状況を確認することです。また、運営スタッフは約50人と多く、全体を見ながら動くことの大変さを感じました。

(421Lab.学生リーダーより)

各種地創の情報はこちらから



421Lab.の
学びを詳しく
発信中！



421Lab.の情報
をリアルタイムで
発信中！